

おやこ と スマホ 楽しく利用する 5つの ポイント

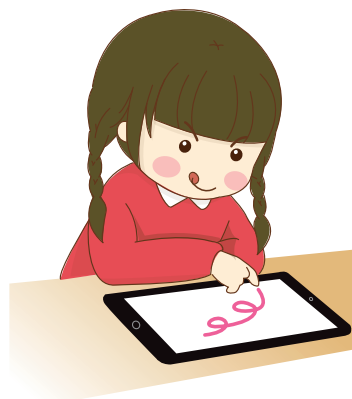


① 親子で会話をしながら 利用しましょう

親子の会話も、乳幼児にとっては大切な学習の機会です。スマホが「保護者の代わり」をするのではなく、一緒に利用することでコミュニケーションを楽しんでください。

② 創造力を育む機会に しましょう

乳幼児がスマホを利用して、自ら考え表現できる機会を作りましょう。お絵描きアプリなどを活用するのも良いでしょう。



③ 様々な体験ができる機会を 作りましょう

乳幼児の発達には、様々な体験が必要です。外遊びや絵本の読み聞かせ、おもちゃ遊びなどと、スマホやアプリの利用を、バランスよく組み合わせましょう。

④ 生活サイクルを 守りましょう

スマホやアプリの利用についてルールを作ることが大切です。睡眠時間や他の生活時間が減ることのないようにしましょう。



⑤ アプリは親子で 選びましょう

乳幼児の発達につなげるためには、アプリやコンテンツ選びに保護者が関わるのが大切です。創造力を育めるか、高品質か、などの点に配慮しながら親子で選びましょう。

「5つのポイント」は、私達がまとめました

●山内祐平氏（NPO法人エデュステクノロジーズ代表理事／東京大学大学院情報学環 准教授）、●佐藤朝美氏（東海学院大学人間情報学部 講師）、●堀田博史氏（園田学園女子大学人間健康学部 教授）、●小川哲也氏（学校法人ふたば学園理事長／川崎ふたば幼稚園園長）、●小林照男氏（社会福祉法人コピーソシオ理事長／株式会社コピーアンドアソシエイツ代表取締役）、●野口哲也氏（学校法人聖愛学園・聖愛幼稚園園長）、●株式会社スマートエデュケーション



おやことスマホ 楽しく利用する 5つのポイント

まとめた私達から 保護者の方へ



子どもの成長のために意識したい事

山内 祐平氏

NPO法人エデュステクノロジーズ代表理事／
東京大学大学院情報学環 准教授

まずは、スマートフォンやタブレット端末を「人と人とのコミュニケーションをつなぐ媒介（メディア）として使用する」ということです。スマートフォンやタブレット端末などメディアを経由して、親子や友達同士が対話する時間を作ってほしいと思います。

次に、「子どもに対して様々な経験を積ませる」ということです。心身の発達段階においては、当然身体を動かす経験も必要であり、メディアについても1つに偏るのではなく、幅広いメディアに接触する経験が必要です。外で遊ぶ経験、本を読む経験、そしてスマートフォンなどで双方向な遊びをする経験など、多種多様な経験のバランスをとることが重要だと思います。

最後に、「時間を意識する」ということです。「メディア（スマホなどを含む）の利用は、2歳以上は1日2時間以内」と考えていますが、この適正時間を機械的にとらえるのではなく、まずは「どういう使い方をするのか」ということをしっかりと考え、その上で時間についても意識して頂きたいと思っています。



豊かな直接経験を促す、 IT機器はとても有効

小川 哲也氏

学校法人ふたば学園理事長／川崎ふたば幼稚園園長

幼児には自然やその他と直接触れ合う「直接経験」が一番大切だと思っています。しかし、最近の子どもたちは直接経験が苦手です。というより、どうやって遊べばよいのかを知りません。豊かな直接経験を促すように、IT機器はとても有効だと思うのです。決して「IT機器を勉強する」とか「IT機器で勉強する」というのではなく、たとえばリズムアプリによって実際に楽器を作ったり、「街」の絵本によって自分が住む街に興味を持ったり、撮影した写真を友達同士で見せ合い、会話が広がる……。そういう有効利用をするためにはまず「IT機器を子どもたちに使ってもらう際に不安に思えることをあぶり出し、適切な使用方法・環境を考えなければいけません。

今回は各方面の研究者や実践者が情報と知恵を出し合って、まずは利用にあたっての基準を提言しました。今後は「どうすれば有用な使い方になるか」の議論を深め、子どもたちの幸せに供することができたらと考えています。



親子の関係性が深まるような スマートデバイスの可能性

佐藤 朝美氏

愛知淑徳大学人間情報学部専任講師

子どもの経験が豊かになり、親子の楽しい時間が膨らみ、さらに親子の関係性が深まるようなスマートデバイスの可能性と一緒に模索することが出来ると思い、「5つのポイント」策定に参加し、メディアに否定的な研究やガイドラインとも真摯に向き合い、議論を重ねました。子どもの直接経験を促し、親子対話を賦活させるかどうかは、アプリのデザインや利用する保護者の心構えにかかっていると考えます。「5つのポイント」をいかに、アプリのメリットを多くの親子がより多く享受することを願っております。



未来を生きる力を身につける

小林 照男氏

社会福祉法人コピーソシオ理事長／
株式会社コピーアンドアソシエイツ代表取締役

これからの未来を生きる子どもたちは、ITを避けて通ることはできません。日常の中でITに親しむことは、とても大切です。しかし、ゲーム性が強いアプリなどに熱中しすぎて生活習慣が乱れ、実体験とのバランスが崩れるなどの悪影響も懸念されます。この「5つのポイント」が、子どもたちの正しいITリテラシーを育み、未来を生きる力を身につける一助となればと思います。ITを通して、より豊かな体験ができるように、そして、マナーやルールが自然に身に付けられるように、保育現場において引き続き研究を行っていきたいと考えています。



幼児期のメディア利用は、 コミュニケーションの起点となるように

堀田 博史氏

園田学園女子大学人間健康学部 教授

私は「幼児期のメディア利用は、コミュニケーションの起点となるように」と考えています。なぜなら、幼児はメディアをコントロールする力が育成途中だからです。幼児がアプリに触れる時間や幼児がテレビを視聴する時間は、保護者が子どもの様子を観察する時間と考えてみてください。一緒に時間を共有することで、幼児の思考過程などの新たな発見がきっとあります。これが、コミュニケーションの起点になるのです。



この「新しい教材」 にしかできないことは何か

野口 哲也氏

学校法人聖愛学園・聖愛幼稚園園長

感受性が強く、何でもスポンジのように吸い込んでしまう子どもに、単に「流行しているから」という理由でスマホやタブレット端末という「新しい教材」を安易に与えることは避けるべきです。この「新しい教材」にしかできないことは何か、この教材を通して子どもに何を伝えたいのか、そしてそれをどのような形で提供するのがベストなのか、しっかりと検討した上でのみ導入されるべきだと考えています。今回の「5つのポイント」はそのために大きく活用されることでしょう。



ママの悩みを解決して、親子で楽しく利用できるように

池谷 大吾

株式会社スマートエデュケーション 代表取締役

「5つのポイント」策定の背景には、『子供がスマホに夢中になってしまうので、タイマーをつけてほしい』、『動画サイトで暴力的な映像を見ていた』など、お母さんたちの悩みがありました。こどもの成長のために、どんなアプリを選び、どれくらいの時間であれば良いのか、ぜひ保護者の方に知っていただきたいと考えています。子どもが小さいときから様々なものに触れて、新しいこと学ぶことはとても重要です。ITスキルが必要不可欠になる中、様々な体験の一つとして、スマホやアプリを親子で楽しく利用していただきたいと考えています。

この「5つのポイント」はWebサイトで詳しく紹介しています [\[http://smarteducation.jp/\]](http://smarteducation.jp/)